

# La Movado

Fondita en 1951 N-ro 780 februaro 2016

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ  
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ōsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO  
Tohurō minami 2-8-7, Dazaihu-si, Hukuoka-ken, 818-0105

ESPERANTO-LIGO de TYŪGOKU kaj SIKOKU  
Tutui 1057, Matumae-tyō, Iyo-gun, Ehime-ken, 791-3120  
Nakatuka Kimio

## ENHAVO

第64回関西エスペラント大会は泉北ニュータウンで	寺島 俊穂 1-2
初心者のための語尾なし単語の使い方(38)	相川 節子 2
楽しい作文教室(55)	塚本 猛 3
Kajero libervola: Iom pri Tohoku kaj Japana Kongreso de Esperanto	MINAMIYAMA Akio 4
ジャンボリーを機に思うこと(1)	堀田 裕彦 5
モバード俳句(47)	広高 正昭 6
竹花さんの思い出	前川 治哉 7
Kial Mi Legas Du Hamletojn de Ŝekspiro?	NAKAGAWA Tokio 8-9
Salono: Esperanto prezentita de polo	TAHIRA Masako 9
Vortaro por lernantoj(161)	Laŭlum 10
うちの例会(8) 広島エスペラント会	忍岡 守隆 10
La Movado: ザメンホフ祭、ロンド近況ほか	11-13
Vortkruca enigmo / 作文教室課題	14
Mikspoto / KLEG 事務局だより / 作文教室成績	15
編集ノート	16

## 第64回関西エスペラント大会は泉北ニュータウンで

寺島俊穂(第64回関西エスペラント大会実行委員会)

2016年の関西エスペラント大会は、6月18日(土)～19日(日)に、堺市の泉北ニュータウンの中心、泉ヶ丘駅の近くの「ビッグ・アイ」(国際障害者交流センター)で開催します。堺エスペラント会と富田林エスペラント会が中心になって準備を進めています。「ビッグ・アイ」は、大きな公共施設で、快適で広々とした宿泊施設も付いています。

エスペラントの未来を開く大会テーマの“協力・対等・創造 Kunlaboro, Egaleco, Kreado”は、関西エスペラント大会(Kongreso de Esperantistoj en Kansajo)の略称KEKにちなんで付けたものですが、今後のエスペラント運動にとって最も重要な理念を簡潔に表しています。

協力は、エスペランチストの国境を越えた協力・連帯だけでなく、エスペラント運動に理解を示す団体や個人との協力関係の構築もめざすことを意味しています。対等は、エスペラントによって人と人が対等にコミュニケーションできる空間を広げ、対等で非暴力的な地球文化を形成していくことを意味しています。対等ということばは、権利の平等だけでなく、関係性の平等を表しています。創造は、エ

スペラントの創造力と可能性を表しています。計画的に設計・建設された泉北ニュータウンのなかで、計画言語エスペラントの魅力を感じ取ることができる大会にしたいと考えています。

### 多彩で充実した公開番組

公開番組としては、6月18日(土)に、「地球時代の交流言語—エスペラントの可能性を開く」というテーマでシンポジウムを開きます。教育現場やビジネスの世界で英語が偏重される現状があるなかで、エスペラントの可能性について語り合います。パネリストには、政治理論の研究者で、ウィル・キムリッカの『土着語の政治』などの翻訳で知られる岡崎晴輝さん(九州大学)、西洋中世史の研究者で、言語権や計画言語論の観点からエスペラントの社会的意義についても研究している、かどや・ひでのりさん(津山工業高等専門学校)、高校教師として、また地域のエスペラント会で積極的にエスペラント活動に取り組んできた北川郁子さん(神奈川県立多摩高校)という3人のエスペランチストをお招きします。それぞれ異なった視点からエスペラント学習の意義と可能性について講演していただいたあと、会場の参加者もまじえて、民衆の

交流言語のあり方について討論し、言語問題についての認識を深めたいと考えています。

6月19日(日)には、朗読劇「戦時下反戦放送・長谷川テルの生涯と遺児 暁子」を上演する予定です。現在、日本中国友好協会大阪府連合会および劇団息吹と協力して準備を進めています。感動的な内容ですので、一般の方にも広く呼びかけ、エスペラントのことを知ってもらふ機会にしたいと考えています。戦時下の過酷な状況のなかで中国に渡り、民衆の連帯をめざして闘ったエスペランチスト、長谷川テルの生涯をとおしてエスペラント運動の社会的側面を考える機会になれば、と思います。公開講演会では、早稲田大学教授でアドラー心理学を専門とするエスペランチストの向後千春さんに、ご自身の専門の研究を国際語思想と結びつけて講演していただきます。人が幸せに生きるために必要な技法を研究し

ている心理学者のエスペラント論にご期待ください。エスペラントで交流する

これらの公開番組と並行して、エスペラント番組も数多く提供します。アジアからの招待エスペランチストの講演や国内在住の外国人エスペランチストとの交流会のほか、中世に自由都市として栄えた堺の歴史と文化に関するエスペラント講演も予定しています。

エスペラント大会は、エスペランチスト同士の交流の場でもあるので、エスペラントでの交流や演芸や親睦を楽しむことのできる、慣例の番組も提供します。Antaŭkongreso(大会前遠足)では、歴史の面影が残る、堺の旧市街を案内します。

過去と対話し、よりよき未来を創造していくためにエスペラントで何ができるか、一緒に考える大会にしたいと思います。一人でも多くの方が積極的に参加、協力して下さるよう、お願いいたします。

### 初心者のための

## 語尾なし単語の使い方(38)

相川 節子

### 前置詞(18) kun

この前置詞の使い道を、わたしは3つに分けて考えています。辞書などではもっと細かく分けていますし、分け方も少し違うのですが。

①「～といっしょに」の意味で。

Zamenhof partoprenis en la kongreso kun sia edzino.

(ザメンホフは妻といっしょにその大会に参加した)

②「～を身につけて」「～が付属して」の意味で。

La viro kun bruna ĉapo estas s-ro Kimura.

(茶色の帽子をかぶっている男性は木村さんです)

Sur la monteto troviĝas domo kun ruĝa tegmento.

(丘の上に赤い屋根の建物がある)

Kun rideto li akceptis min.

(彼はにこやかにわたしを迎えた)

③対象・相手・接触などを表す。

Se vi vojaĝos al Seulo, anticipu kontakto kun Esperanto-grupo de la urbo.

(ソウルへ旅行するなら、前もってそこのエスペラント会に連絡をとってください)

En la stacidomo mi renkontiĝis kun la vjetnamo.

(駅でそのベトナム人と会った)

La urbo Kioto havas ĝemelan rilaton kun Parizo.

(京都市はパリと姉妹都市の関係を持っている)

日本語使用者にとってやっかいなのが③の使用法です。kontakto kun、renkontiĝi kun の場合は、動詞とセットで覚えておくのが現実的だと思います。

kun を使う合成語はたくさんあります。いちばん身近な合成語は kunveno (会合) と kunsido (会議) でしょうか。kunveno は単に「会合」ですが、kunsido には「会議」のニュアンスがあります。絶対的な区別とはいえませんが、ロンドンの例会やザメンホフ祭、ビアパーティなどは、kunsido を使わない方が無難かと思います。

kunlabori は辞書の訳では「協力」ですが、単なる協力だけではなく共同経営のような場合にも使います。

vivkunulo は「生活を共にする人」なので、事実婚や同性カップルなど、edzo や edzino という単語がピンとこない場合に便利ではないでしょうか。この場合 partnero も使えますが、この単語はダンスやスポーツで組む相手にも使いますので、意味がかなり広がります。



①翌日、彼はいつになく早く目を覚ます。

【訳例1】La sekvantan tagon li ne kutime frue vekigās. (Orion)

【訳例2】En la sekvanta tago li vekigās ne kutime frue. (Ivajo)

【訳例3】En la sekvanta tago li vekigis frue malkiel kutime. (M.H.)

目覚めさせる：veki.

「翌日」は en la sekvanta tago でいいでしょう。morgaŭ (明日) を使った解答もありましたが、これは「今日の次の日、やがて」という意味です。また、venonta (来たる、将来の) を使うのは少し抵抗がありますが、「マルタ (ザメンホフ訳)」に en la venonta tago の用例があります。

「いつになく」は、普段にはないということなので、副詞の ne kutime が使えます。訳例3のように malkiel (～と違って、～と別のやり方で) にしてもいいでしょう。「早く」は全員、frue で表現していました。

②「まだ降っている」と、しかめっ面をする。

【訳例1】Li faras grimacon, dirante, “Ankoraŭ neĝas.” (M.H.)

【訳例2】“Ankoraŭ neĝas” li grimacas. [引用符追加] (Orion, T.Ku)

【訳例3】“Ankoraŭ neĝas” Tiel dirinte li grimacas. (Ivajo)

【訳例4】Li grimacas dirante tiel, ke ankoraŭ nun neĝas. (AG)

しかめっ面：grimaco.

引用箇所を示す引用符は種々あり、同じ種類の引用符を左右組みにします (“ ”, ‘ ’ など)。訳例では、ダブルクォテーション (dustreka rekta citilo) に変更させて頂きました。コンマの有無はそのままにしていますが、訳例2、訳例3では、コンマやピリオドを追加の方がよさそうです。その有無や位置に関しても人、状況により違いがあります。

「まだ」は ankoraŭ (いまだに、もっと) で表現できます。ankaŭ (また) は少し違います。「降っている」のは雨かも知れませんが、次の設問を参照

すると neĝi (雪が降っている) でしょう。

③予報は今日も雪だ。

【訳例1】Laŭ veterprognozo ankaŭ hodiaŭ neĝos. (AG)

【訳例2】Laŭ la prognozo ankaŭ hodiaŭ neĝos. (Eiko, ヒー坊)

【訳例3】Oni prognosis ke neĝos ankaŭ hodiaŭ. (T.Ku)

【訳例4】Oni prognozas neĝon ankaŭ hodiaŭ.

[本文参照] (CA, Drako)

予報：prognozo.

訳例1では、「予報」を veterprognozo (天気予報) と明確にしています。今日の予報ですが、未来についてなので動詞は未来形です。prognozo は他に、競馬の予想 (prognozoj pri ĉevalkurado) や、病気の経過や終末についての予測 (予後) の場合に使用されます。訳例3では oni を主語、prognozo を動詞にして使っています。主文の時制は過去でもいいでしょう。複文側はやはり未来形ですね。

訳例4は、「今日も雪の予報をしている」になると思います。細かいかも知れませんが、この文では、何時に関する予報かが明確ではありません。はっきりさせるには、por を追加して por hodiaŭ にすればいいと思います。

④雪がひどく降るほど、行くのが難しくなる。

【訳例1】Ju pli neĝo falas dense, des pli iri malfaciligās. (Eiko)

【訳例2】Ju pli dense neĝas, des pli malfacile oni iras. (Ivajo)

【訳例3】Ju pli densa estas neĝo, des pli malfacila estas irado. (Fumi)

「ひどく降るほど」の部分は ju pli で表現できます。訳例のように ju pli と des pli は対にして使います。ju 側だけを単独で使うことはありません。ju 側を省略して des 側を単独で使う場合、des は tiom (それだけ) と同様の意味になります。なお、訳例2の neĝas の後に ĉiam を追加しても、前にある pli とは結びつかず、ĉiam pli (どんどん) の意味にはならないと思います。

「行く」ですが、iri の使い方もいろいろありますね。電話で話しているのなら veni (来る) も使えるでしょう。訳例3のように、irado は継続的ですが名詞なので、malfacila と形容詞で受けます。

成績は p.15、新しい課題は p.14

今年は2回東北へ旅行した。最初はエスペラントセミナーオで、二度目は仙台の日本大会である。仙台にゆかりのエスペランティストが多いことを初めて知った。1919年に仙台で初めてエスペラントを学習した島崎捨三は文通していたロシア人を自宅に泊め、小学校で講演させた。フィンランド初代駐日公使ラムステッドも仙台を訪問した。彼は摂政時代の昭和天皇ともエスペラントについて言葉を交わした。

Ĉi-jare mi vizitis dufoje la regionon *Tohoku*: la unua estis mia partopreno en Esperanto-Seminario en majo kaj la alia estis partopreno en Japana Kongreso en oktobro.

En la kongreso partoprenis samideanoj el diversaj landoj: Koreio, Indonezio, Nepalo, Vjetnamio, Ĉinio, Germanio kaj Britio. Ĉiu el ili faris prelegon kaj min impresis tiu de sinjoro *Reza Pahlevi*, indoneziano, pri Granda Cunamo kiu atakis la urbon *Aĉe*, ĉar tio rememorigas min pri Granda Tertremo de Nordo-Orienta Japanio. Hazarde mi havas skajpamikon en Indonezio kaj demandis al li, ĉu li konas sinjoron Pahlevi. Li diris, ke jes, ĉar li vizitis lian urbon. Ŝajnas, ke li estas fama esperantisto en tiu lando.

Mi hontas diri ke mi havis preskaŭ nenian bazan konon pri la urbo *Sendai*. Kompreneble mi sciis ke *Sendai* faras parton de la regiono atakita de la Granda Tertremo. Sed pri rilatoj inter Esperanto-movado kaj tiu ĉi urbo mi eksciis je la unua fojo en tiu ĉi kongreso. Fakte tiu ĉi regiono inkluzive *Sendai* naskis grandan nombron da famaj figuroj, kiuj aktivis kaj sindone laboris por Japana Esperanto-movado. Mi ne povas citi ĉiujn nomojn sed permesu ke mi prezentu al vi unu homon. Li nomiĝas *Ŝimazaki Sutezoo*. Li estis la unua esperantisto en tiu ĉi regiono, kiu memlernis Esperanton en 1919 (oka jaro de *Taiŝoo*). Fininte mezlernejon 2016.2

en la gubernio *Mijagi*, li instruis en elementa lernejo dum longa tempo. Oni ne scias pro kia motivo li eklernis Esperanton, sed laŭ lia samklasano en mezlernejo li jam atingis altan nivelon en lernado de la lingvo en tiu tempo. Onidire li invitis rusan enmigrinton, kun kiu li dum longa tempo korespondadis, al sia hejmo kaj permesis ke li tranoktu du aŭ tri tagojn. La ruso nomiĝas *Inocento Serišev*. *Ŝimazaki* kune kun *Seriŝev* vizitis la elementan lernejon, kie li mem lernis, kaj ankaŭ templojn, kie ili interparolis kun bonzoj pri budhismo kaj sutroj.

En la lernejo la ruso prelegis pri rusaj lernejoj en Siberio dum bankedo kun instruistoj. Li mem antaŭe laboris kiel pastro de Rusa Ortodoksa Eklezio. Ŝajnas ke pro tio li mem havis intereson pri edukado de popolamaso en Japanio. En tiu ĉi okazo *Ŝimazaki* komencis leteramikiĝi kun esperantistoj de aliaj landoj krom Rusio.

Krome la urbon *Sendai* vizitis ankaŭ *Gustav John Ramstedt*, tiama finnlanda aferŝarĝito en Japanio. Li estis lingvisto kaj esperantisto. Li havis la honoron paroli kun la Princo Regento *Hirohito*. Lia moŝto *Hirohito* faris kelkajn demandojn al li, inter kiuj la plej intresa estis tiu pri Esperanto. Lia moŝto demandis: "Sinjoro, mi aŭdis ke vi prelegas pri via lando, Finnlando. En tiaj okazoj en kiu lingvo vi parolas? Ĉu en la angla?" *Ramstedt* respondis: "Ne, via moŝto. Mi parolas en Esperanto." Lia moŝto: "Ho, ĉu en Esperanto? Mi estas informita, ke Esperanto estas tre facila lingvo, ĉu jes?" La Princo jam konis la vorton "Esperanto", ĉar antaŭ kelkaj tagoj *Janagita Kunio* faris prelegon en la Palaco kaj tiam li tuŝis la internacian lingvon. Estas interese scii ke Lia moŝto Imperiestro de *Ŝooŭa* parolis pri Esperanto.

Mia vojaĝo al *Sendai* estis ege laciga, ĉar mi veturis 12 horojn per aŭtobuso el *Namba*, *Oosaka*, sed ĝi estis vere fruktodona por mi.



## ジャンボリーを機に思うこと（1）

堀田 裕彦（大阪府）

2015年夏の第23回世界スカウトジャンボリー（以下、23WSJ）でのエスペラントブースについては、既報のとおりですが、2年間の準備や実施後の実績で、気をつけたことや、気づいたことを経験共有のために、この場をかりて紹介していきたいと思います。

### 【1】23WSJへの協力参加を提案するまで

23WSJをさかのぼる2年前、海外のスカウトエスペラント連盟（SEL）関係者から、2015年23WSJが日本で開催されるので、エスペラントブースを立ち上げてくれないかと打診がありました。

私は、スカウト運動に指導者や支援者として15年以上関わっていました。活動にエスペラントとの接点を盛り込む機会を幾度も考えてはいましたが、ほとんどみつけれませんでした。

SEL日本支部もこの20年は休眠状態でした。ゆえに、国内では、スカウト運動とエスペラント運動は接点が無い状況でした。

当初、23WSJ開催事務局とどう連絡をとるべきかととまどいました。幸い、過去2回世界スカウトジャンボリーでのSELの参加協力実績があったことと、JEIの協力を得てブース主催者を団体名義として申し入れることができたおかげで、2014年夏、ボーイスカウト日本連盟の東京本部ビルに出向き、参加の道筋ができました。

SELの過去実績が無かったり、個人名義での申し入れだったら、23WSJ事務局に提案を受け入れてもらえなかったところでした。

◆これまで蓄積された団体としての価値（法人名義、活動実績）は、こうやって強みとして活用すればよいのだと、今回の経験でこれまで以上に強く思いました。組織が何かをしてくれないといった依存発言をしていちゃダメですね。活用する立場で考えていかななくては。

### 【2】ブースのテーマを決めるまで（その1）

ジャンボリーは、世界から集まった青少年スカウトたちに、企画された参加型の番組で、多彩な経験学習をさせることが求められる場です。

エスペラント関係者（外部関係者）がプログラムブースなどで参加するには、ジャンボリーのプログラム運営への貢献が、必須の条件だったのです。

La Movado 780

従来からよくある、エスペラント展示会や無料講習会のような「自己宣伝中心」の内容は、無力です。

スカウト運動では青少年の国際交流や国際協力をめざしているのですが、それだけで、「エスペラント」を前面に出すには力不足感がありました。世界スカウトジャンボリーには公用語が定められている（英語とフランス語）ので、なおさらでした。

◆今回は相手ありきの行事に乗り込んでいったので、「貢献」度合いを強く意識する機会になりました。私たちが日頃おこなっている展示会や体験コースでは、自分の示したいものを示す展示や説明をしがちではないでしょうか。それを「外向けの活動」と称していてよいのかと考える機会になりました。

### 【3】ブースのテーマを決めるまで（その2）

たまたま「スカウト運動創始者ベーデンパウエルがエスペラントを推奨していたこと」を知ったので、これをヒントに、「エスペラント」という語を小道具に使って、「創始者がスカウトに求めた国際交流や言語を考える機会を、青少年スカウトに提供すること」で、23WSJに貢献ができると判断して、ブースのテーマが、おちつきました。

◆スカウト運動とエスペラントは、実は、歴史的に関係が深かったので今回はある意味助かりました。ただ、ジャンボリーに限らない何かの企画を別の団体や運動体とするときに、エスペラントとの関わりを調べる手段（雑学指南のようなもの）があれば、今後おおいに助かると思いました。いまのところ、これはという手段は、みつけれられていません。インターネット時代以前には、Mikspotoの記事集を期待したこともありましたが、いまどきなら、記事テキストのキーワード検索ができれば、調べの助けになるはずですが、La Movado誌やLa Revuo Orienta誌の記事のテキストデータベース化のようなプロジェクトを誰か立ち上げてくれないでしょうか。（続く）



エスペラントブースで着用したTシャツ

## Rondo Hajkista (47)

HIROTAKA Masaaki (広高 正昭)

Inter la sezonvortoj de vintro ni trovas kelkajn bestojn, kiujn ni tamen malofte vidas en ĉiutaga vivo de la moderna socio. Ekzemple urso, vulpo, mustelo, lupo, falko, aglo, strigo, gado, lofio, markukumo k.t.p. Ni malofte verkas hajkojn pri tiuj bestoj. Sed ja indas lerni de bonaj hajkoj de eminentaj hajkistoj. Jen mi citas tri pecojn, kiujn mi esperantigis.

blanko de gado  
kiel nebula luno...  
ene de bovlo (MACUNE Toojooĝou)

aglo en kaĝo  
pro sento de soleco  
batus flugilojn (ISIDA Hakjoo)

marŝi ĉien ajn  
kune kun tiu lupo  
jam formortinta (MICUHAŜI Toŝio)

では投稿句を見ていきます。今回は5人の方から計15句をいただきました。ありがとうございます。

tra nudaj branĉoj  
minacas duonluno —  
ĉio senbruas (Herbulo)

枯れ枝を透かして、半月が威嚇するように地表を照らしています。静まりかえって物音一つありません。夜の厳しい寒さを思わせるだけでなく、作者の置かれた厳しい状況を想像させます。minaciのような語を安易に使うと駄目な俳句になりますが、作者はうまく使いこなしています。入選。

Neĝfloko unu  
el ebena ĉielo —  
Buso alvenis (Takesi)

仕事の帰りでしょうか、寒い夜のバス停で待っていると、漆黒の空からひとひらの雪が舞い降りてき

ました。やって来たバスに乗って行くと、暖かな家が待っているのでしょう。佳作。

Neĝflokoj flirtas.  
Interpuŝiĝas ŝipoj  
ĉe nigra kajo. (Joŝi)

夜の波止場に船がひしめき合っています。風が強いのか、雪が舞うように降ってきます。注意すべきはŝipojは意味の幅が広いので、大型船を想像するこの句は成り立ちません。boatojかjaĥtojに変えると意味が限定されて光景がはっきりします。

Sekpersimono  
rezistinta malvarmon  
fariĝis dolĉa (Gruo)

渋柿が甘くなるのは、渋み成分のタンニンが日干しによって水に溶けにくくなり、渋みを感じなくなるからだそうです。それはそれとして、寒さに耐えて甘くなると考えるのも、人生に重ね合わせていいのかも知れません。なお干し柿そのものは秋の季語。

ĉe la fenestro  
unu narciso sola  
aromas freŝe (Tokie)\*

窓辺に置かれた1本の水仙がみずみずしい香りを放っています。中七と下五を添削しました。原句にあるfrosiは何かのタイプミスだと思いますが、提出前には念のため辞書で確認することを習慣にしてください。

では最後に選者の一句です。

ridoj kaj tintoj  
kun monta susurado —  
apraĵo varma

### モバード俳句投稿案内 (5月号に掲載予定)

- temo (兼題) : 自由題。春の季語を詠みこむ。  
(複数投句の場合は無季句を含んでも可)
- 郵送の場合 : 作品 (3句まで) とローマ字書きの筆名、住所氏名を記載。送り先は、  
〒832-0073 柳川市鍛冶屋町 39 広高正昭
- 電子メールの場合 : 内容は郵送の場合と同じ。  
送り先は、hirotk-m@nifty.com
- 締切 : いずれの場合も2月29日必着。

## 竹花さんの思い出

前川 治哉 (兵庫県)

竹花稔一(たけはなとしかず)さんから15年前にももらった、昔の中津の事務所の様子を描いた版画を、11月7日のKLEGの理事会に持参したところ、染川隆俊さんが額装してくれることになったのだが、11月末に彼の死を知ることになった。今から思えば、きっと虫が知らせたのだろう。

竹花さんとは、前の事務所では顔を合わせていたものの、さして親しくしていたわけでもなかった。しかし、1999年の長野県望月での第86回日本エスペラント大会の帰途、「あんたが飲めるとは知らなんだ」と声をかけられ、それから毎月のように、わたしの行きつけの店へ誘うようになった。その時の話題は、仕事で全国を油を売って歩いた話(丸善石油の特約店で不凍油やグリスのセールス)や、イタリアで「スパゲッティ」と言っても通じず、パスタではじめて腹が満たせたというような海外旅行の話など、ユーモアのある楽しいものだった。

また、日本エスペラント協会のLa Revuo Orienta(2014年6月号)の「わたしのエスペラント人生」にも、ご本人が書いておられるように、版画作成に打ち込まれ、自宅の一室に工房を作っておられた。

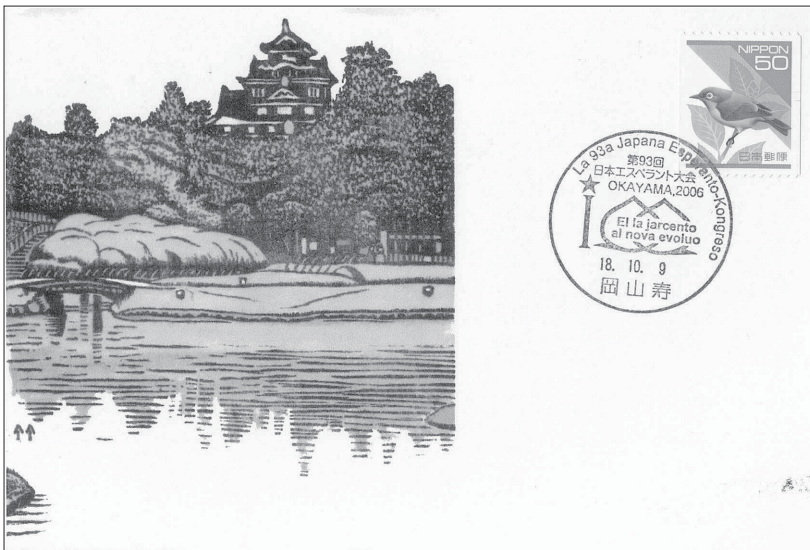
版画だけではなく、スケッチもお上手で、日本大会や関西大会の郵便局の記念スタンプを押印するために、わたしが作った絵入りの封筒やはがきのさし絵も、時にはいっしょに現地へあらかじめ取材に

行ってお世話になった。

そのうちの一つの、2006年の岡山での第93回日本エスペラント大会のときは、青春18きっぷで日帰りしたのだが、「後楽園はつまらん所や」と言いながら後楽園へ行って、岡山城を借景にしたポイントに案内すると、ごらんのような名作を作ってくれた、といった思い出もある。



- |      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 日本大会 | 2003年 第90回 亀岡会場建物                |
|      | 2005年 第92回 横浜みなとみらい<br>ランドマークタワー |
|      | 2006年 第93回 岡山後楽園                 |
|      | 2008年 第95回 和歌山城                  |
|      | 2009年 第96回 甲府裏富士                 |
| 関西大会 | 2002年 第50回 大阪城                   |
|      | 2003年 第51回 国立民族学博物館と<br>太陽の塔     |
|      | 2004年 第52回 草津本陣                  |
|      | 2005年 第53回 三条大橋と鴨川風景             |
|      | 2008年 第56回 平等院                   |



竹花人(稔一)さんの自画像(版画)



今年はシェークスピア没後 400 年にあたります。それに因んで、芦屋エスペラント会の機関誌 Junkano21 号 (2000 年 3 月) から、「ハムレット」のエスペラント訳について故中川時男さんが書かれた記事を転載します。

## Kial Mi Legas Du Hamletojn de Ŝekspiro?

NAKAGAWA Tokio

Nun, ni havas du tradukitajn librojn de *Hamlet* de *Shakespeare*. Unu, kompreneble, estas la fame konata “Hamleto, Reĝido De Danujo” tradukita de *Zamenhof* mem. La dua estas la sama “Hamleto, Princo de Danujo” tradukita de *Newell*. La unua estis eldonita en 1894, la dua en 1964. Do, pli ol duonjarcento kuŝas inter la du verkoj.

Kiel profesoro de angla lingvo kaj literaturo en alia universitato mi ripete legadis la verkon en angla lingvo dum 15 jaroj kun miaj gestudentoj. Kaj mi kredis, ke mi estas feliĉe elektinta anglan lingvon, ĉar mi povis legi Ŝekspiron en la originala angla lingvo.

Sed, antaŭ nelonge, mia edzino al mi demandis, kion signifas mia legado de *Hamlet* en Esperantaj tradukoj, kiam mi povas ĝin legi en la originala lingvo.

Tial mi pensis kaj pensadis pri ŝia demando. Mi devis trovi respondon al ŝi. Kaj mia respondo sekvas jene:

Tiel *Newell* sindemandis kaj sinrespondis: “Resume, do, la *Zamenhofa* traduko de Hamleto estas, kaj ĉiam restos unu el la plej belaj kaj valoraj artaĵoj en nia literaturo; sed la maltrankvila homa animo hodiaŭ bezonas pli fidelan version, verkitan laŭ la hodiaŭa esprimmaniero. Jen, esence, pravigo por ĉi tiu retraduko. (en sia Enkonduko)

*Zamenhof*, kiel *Waringhien* kaj *Newell* asertas, ne estis bona leganto de angla lingvo. Liajn verkojn tradukitajn en Esperanton el angla lingvo, t.e. Hamleto kaj Batalo de l' Vivo “*Zamenhof* faris ... uzante plurajn nacilingvajn

tradukojn, germanan certe, kaj probable polan aŭ rusan.” (Citata de *Newell* el *Waringhien* en sia Enkonduko de Hamleto.)

Sed, la du tradukitaj verkoj de *Zamenhof* estas en bona Esperanto, kion eĉ *Newell* kaj *Waringhien* konsentas. La problemo estas, kiel *Newell* asertas, la ĉeestado de l' historia ŝanĝiĝo de l' Esperanta lingvo eĉ dum duonjarcento.

Ĉi tie mi volas kompari la unujn kun la aliaj tradukoj, citante la tri famajn frazojn el Hamleto tradukitajn de *Zamenhof* kaj *Newell*:

Unue, pri “*Frailty, thy name is woman.*”

*Zamenhof*: “Malforto! via nom' estas: virino!”

*Newell*: “Malforto, <<Virino>> oni nomu vin!”

Due, pri “*To be, or` not to be: that is the question*”

*Zamenhof*: “Ĉu esti aŭ ne esti,- tiel staras

Nun la demando: ĉu pli noble estas

...

Kaj kiu do en ŝvito kaj en ĝemoj

La ŝarĝon de la vivo volus porti,

Se ne la tim' de io post la morto,

De tiu nekonata land', el kiu

Neniu plu revenas.”

*Newell*: “Ĉu esti aŭ ne esti: jen demando

Kiu plej gravas: ĉu pli noble estas

...

Kiu portus ŝarĝon

De teda vivo, ŝvite kaj ĝemante

Sen ke la tim' pri io post la morto,

Ne esplorita land' el kies lim'

Neniu vojaĝant' revenas,”

Ni ne ankoraŭ povas trovi la diferencon inter du tradukitaj frazoj, eĉ se ni komparas tiujn ambaŭajn tradukojn detale.

Sed, kiam ni turnas nian atenton al la sekvanta komparo, ni komencas senti la du perfekte diferencajn tendencojn inter la maniero de *Zamenhof* kaj tiu de *Newell*.

Angla originalo ĉi tie: “*Her clothes spread wide;*

*And mermaid-like awhile they bore her up:*

*Which time she chanted snatches of old times;*

*As one incapable of her own distress,*



Or like a creature native and indued  
Unto that element: but long it could not be  
Till that her garment, heavy with their drink,  
Pull'd the poor wretch from her melodious lay  
To muddy death."

(kursivigita de la aŭtoro)

**Zamenhof:** "Ŝiaj vestoj  
Sin disetendis kaj malgrandan tempon  
Kvazaŭ sirenon ŝin ankoraŭ portis,  
Dum ŝi kantadis melodiajn kantojn,  
Danĝeron sian tute ne sentante,  
Kvazaŭ la akvo estas ŝia hejmo.  
Sed baldaŭ ŝiaj vestoj, penetritaj  
Per peza akvo, ŝin malsupren tiris,  
La malfeliĉan, al terura morto."

(kursivigita de la aŭtoro)

**Newell:** "Ŝarĝiĝis ŝiaj vestoj, kaj mallonge,  
Kvazaŭ sirenon, ili ŝin naĝigis,  
Kaj dume pecojn el malnovaj himnoj  
Ŝi kantadis kiel iu nekapabla  
Sian danĝeron senti, aŭ kreaĵo  
En akvo naskiĝinta. Tamen, longe  
Ne povis daŭri ĝis la vestoj, pezaj  
Pro sia trink', la povrulinon tiris  
Do ŝia kanto al la mort' en koto."

(kursivigita de la aŭtoro)

Speciale, en la lastaj tri aŭ kvar linioj de  
tradukitaj verkoj mi vidis la klaran diferencon  
inter interpretoj ĉe Zamenhof kaj ĉe Newell, kie  
mi kursive skribis iliajn manierojn de tradukoj  
kaj ankaŭ ĉe la originalo.

Kaj vi vidis klare kiel Zamenhof mem,  
skribante kaj private interpretante la lastajn  
liniojn, uzis la vortojn tiel,

"Sed baldaŭ ŝiaj vestoj, penetritaj  
Per peza akvo, ŝin malsupren tiris  
La malfeliĉan, al terura morto."

Sed, Newell, fidele kaj farinte vortoludon,  
uzante "kanto"-n kaj "koto"-n, kaj uzante la  
originalajn dikotomiojn, "ŝia kanto"-n kaj  
"mort' en koto"-n, tiel,

"Tamen, longe

Ne povis daŭri ĝis la vestoj, pezaj

La Movado 780



## Esperanto prezentita

### de polo

Tahira Masako (Kioto)

La 4an de decembro 2015  
ĉe Dooŝiŝa-Universitato en  
Kioto okazis "Pola Filmfesto

2015".

Unu el la filmoj temas pri teruraj spertoj de  
judoj en Varsovio en la jaroj 1939-1943. La filmo  
"Samson" estis reĝisorita de Andrzej Wajda  
en 1961, sed ĉi-foje prezentiĝis por la unua  
fojo en Japanio. La reviziisto de la japanlingva  
subtitolo estas Watanabe Katsuyoshi, esperant-  
isto, specialisto de pola lingvo.

Post la fino gastparolis Tadeusz Adam Ożóg,  
27 jarojn loĝanta en Japanio. Kun bildoj li  
komentis la filmon. Unu el la bildoj estis pri  
Zamenhof kaj Esperanto, kvankam li ne estas  
esperantisto.

### Salono 原稿募集

Salono 欄は投書欄で、常時投稿を受け付けてい  
ます。エスペラントに関することは日本語・エス  
ペラントのどちらでも。エスペラントに直接関係  
のない内容の投稿は、必ずエスペラントでお願い  
します。

原則として半ページ（日本語なら 23 文字× 40  
行、エスペラントなら約 260 語前後）以内です。

裏表紙の住所へ郵送またはファクス、電子メー  
ルなら lamovado@gmail.com へお送りください。

### 第17回中国四国エスペラント大会

2016年11月5日(土) 6日(日) 会場は未定

### 第90回九州エスペラント大会

2016年5月28日(土) 29日(日)

グランティア太宰府

*Pro sia trink', la povrulinon tiris  
Do ŝia kanto al la mort' en koto."*

(Fino)

2016.2

# Vortaro por Lernantoj — Laŭlum

161

**volvi:** 1 Plurfoje rondmeti ion flekseblan ĉirkaŭ io alia. 2 Rondforme turni platan objekton ĉirkaŭ ĝi mem.

*Por bone protekti l' teleron,  
Ŝi volvis ĝin en pakpaperon.  
Sed pro hastec' ŝi glitfalis,  
Kaj ĝin faligis sur la teron*

**vorto:** 1 La plej malgranda parto de parolo. 2 Serio da vortoj, formantaj unu aŭ plurajn mallongajn frazojn: Per unu vorto, li estas perfekta.

*Lernadu vortojn! Memoru vortojn!  
Signifas vortoj esprimajn fortojn.  
Se multajn vortojn vi bone konos,  
Esprimajn fortojn do vi disponos.*

*Mirindaj estas niaj vortoj.  
En ili kuŝas grandaj fortoj.  
Per vortoj ni ne nur parolas,  
Sed pensas, kreas por komfortoj.*

**vosto:** Postaĵa pendaĵo de diversaj animaloj.

*La pavo havas voston belan,  
Kaj tio faras ĝin fieran.  
Paradas pave ĝi la plumojn,  
Rikoltas nur mokridon veran.*

**vundi:** 1 Difekti vivan korpon per tranĉo, piko aŭ bato. 2 Suferigi ies animon aŭ koron per dolora frapo.

*Vundebla estas homa kolo,  
Vundebla estas homa koro.  
La kolon vundas akra glavo,  
La koron la patrino ploro.*

**zorgi:** 1 Serioze direkti sian atenton kaj aktivecon al ies bono. 2 Apliki sian atenton, ke ago estu bone plenumita.

*Zorgu ankaŭ la aliajn,  
Kaj aliaj zorgos vin.  
Ne prizorgu nur la viajn,  
Kaj feliĉos vi sen fin'.*

うちの例会 kunvenoj ĉe ni (8)

## 広島エスペラント会

12月2日の週例会の様子です。

11月末にたのしい会話教材 Amuze Lernu (Kompilita de LEE Chong-Yeong, eld. KEA) が終わってしまいました。

笑い話ばかりの教材ですが、付録の質問を1対1でやりとりする時間でお互いの人生経験やユーモアが分からない自分の真面目さなど、まあ、にぎやかなこと。

同じような教材を探して、フランス人作家の Am'...Uziĝu を採用、私が手製の質問集を付けて12月2日に使い始めました。まだ、校正や校閲が必要な質問集ですが。

最初に私が「私たちの日常生活で使うことがない知らない単語が出てくるけど、覚えなくていい。話の内容が分かればいいノダ」と手ほどき、時事ニュース(原節子死去)のあと分散しました。

杉林晴行クラスは岡本珠代、川本咲枝、忍岡妙子の4人で、篠田充陽クラスは岩本みえ、忍岡守隆クラスは信谷敏昭で新教材、新体制で再出発しました。

例会は週に一度のたのしい出会いで、呉市名物揚げドーナツとか、岡本家で採れたカボスとか、温泉ソムリエの川本さんの別府土産とか皆、たのしい出会いです。(忍岡 守隆)

## 「うちの例会」原稿募集

あなたのロンドの例会ではどんなことをやっていますか。会合の内容、機関誌のことなど、ロンドのようすを1ページ以内でお書きください。送り先は lamovado@gmail.com です。

2002年4月号に abelo で始まった "Vortaro por lernantoj" は、z までたどりつきました。連載はこの号で終了します。

筆者の Laŭlum さんからいただいた原稿を、半ページに収まるよう、また読み易いようにと、見出し語の選択や毎号のレイアウトをしてくださった峰芳隆さん、長い間ありがとうございました。

(編集部)

## 各地でザメンホフ祭

(記事中心 E = エスペラント)

### 大津



11月29日午後、大津市の「明日都(あすど)浜大津」で近江E会・京都E会・宇治城陽E会の合同ザメンホフ祭を開催した。参加者は講師も含めて23人。

まず大西真一さんがフランス・リールでの第100回世界エスペラント大会の報告。次にスペインの留学生 Ander MARTINEZ さんが「バスクの歴史と言語」について、日本語で講演。続いて西尾務さんが宮沢賢治の詩「雨ニモ負ケズ」を日本語とエスペラントで暗唱。記念写真を撮った後、書籍の購入などで15分間の休憩。後半はギターを抱えた野田淳子さんの日本語とエスペラントによる歌、橋本今日子さんのエスペラント訳絵本の朗読、そして橋本さんの笛の伴奏で全員がエスペラントで「琵琶湖周航の歌」を歌った。ネ・エスペランティストや初心者への参加もあった。

司会は大西真一さん。書籍の売り上げは13,220円。 [←大西 真一]

### 枚方



11月29日午前11時より、枚方市民会館で枚方

E会・高槻E会・茨木E会合同のザメンホフ祭を行った。参加者は枚方E会5人、茨木E会3人、高槻E会7人の合わせて15人。

自己紹介のあと、那須和弘さんが「文学に見つけたエスペラント」のテーマで話し、堀田裕彦さんが世界スカウトジャンボリーでエスペラントブースを設けた経験を報告、堀田有里さんが図書紹介。昼食に続いて中北範子さんが“Tartu, la urbo kie loĝas mia amikino”のテーマで、また吉川峰子さんが“Skiza historio de Estonio”のテーマで、エスペラントで話した。山崎隆三さんは世界大会とその前後に撮影した写真をスライドで披露した。高槻エスペラント会は寸劇“Tri sagoj”を披露、最後に中津正徳さんが世界大会の報告をした。

司会は堀田裕彦さん。書籍の売り上げは19,990円。 [←堀田 裕彦・山本 徹]

### 和歌山



12月5日午前10時半より、例会場のサロン「会」でザメンホフ祭を開催し、7人が出席した。

毎年通例の各参加者のプレゼント交換の後、群馬E会堀泰雄さんのNHKラジオ深夜便・明日へのごとばDVD「ことばが広げる世界の絆」や唐丹小学校児童の震災後の活動記録を鑑賞。12時半から場所を料亭「一京庵」に移し、昼食忘年会。ビールで乾杯後、エスペラント活動も振り返りながら現在の世界情勢や老後のあり方など様々な話題に花を咲かせた。 [←江川 治邦]

### 豊中

12月6日午後、豊中E会・吹田E会・池田E会が合同で、12月6日午後、とよなか国際交流センターにて「北摂ザメンホフ祭」を開催した。参加者は豊中E会5人、池田E会4人、吹田E会4人、





宝塚E会1人の合計14人。豊中E会は、未(ひつじ)年が去るにあたって「調子をそろえてクリック・クリック・クリック」をエスペラントで歌ったほか、漢詩のエスペラント訳を朗詠、国際交流フェスタの動画などを紹介した。

吹田E会からは、第100回世界大会で盛況だった憲法九条の分科会の報告があった。

池田E会からは、「雨にも負けず」のエスペラント訳朗読と、狂言「鬼の養子 Adoptito de Demono」が演じられた。

「みんなで歌おう」の時間には、カラオケ用の映像にエスペラントの字幕をつけたものを見ながら「花は咲く」を歌った。

書籍の売り上げは15,550円。[←佐野 寛、山野 敏雄]

#### 宮崎



12月12日午後2時より宮崎市民プラザで、宮崎E会総会兼ザメンホフ祭を開催。参加者は延べ7人。La Esperoの斉唱、松本淳会長の挨拶の後、例年の如く活動報告、会計報告を行い承認された。La Praktikantoの発行、定例会についても現行のままとなった。

2016.2

その後来年の入門講習会についての話し合いを行い、宮崎E会としてはメンバーを獲得しないことには数年後に消滅する可能性があり、入門講習会を是非とも成功させようと話し合った。

最後に会費徴収、記念写真撮影などを行い、4時過ぎに散会した。

[←近藤 方彰]

#### 松山

愛媛E会は12月12日午後3時から松山市の「すし丸」本店でザメンホフ祭兼総会を行った。出席者は9人。

第1・3土曜日の勉強会に出席している7人と、毎週木曜日の勉強会に出席している7人が会って情報交換をし、懇親を深めるのが主目的であったが、仕事の都合や、体調の関係で出席できない会員がいたのは残念だった。しかし、会は予想以上に盛り上がり、入門間もない会員の学習実践の場ともなった。時間の関係で会計報告等は文書配布で行われたが、所期の目的は十分達せられ、すばらしいザメンホフ祭であった。

[←中塚 公夫]

#### 神戸



12月12日午後1時より神戸市青少年会館ではりまE会と神戸E会が合同E祭を開催。出席者22人は、山本登美子さんの司会で歌唱(中村雅子さん指導)やエスペラント紹介DVD(水谷一志さん作)を楽しんだ。新刊図書紹介の後、たっぷり1時間の休憩兼図書販売時間を取ったためか、図書販売は、48点、70,590円に達した。特筆すべきは、スカイプによるタイ・バンコックとの交流に成功したこと。(タイ在住の田中一喜さんとはりまの塚本猛さんの努力に感謝)。また、堀田有里さん(枚方)が日本大会の宣伝をし、4人が申し込んだ。終了後、忘年会を行い、10人が参加した。

[←磯貝 尚武]



奈良



12月13日午後1時半より、奈良市西部公民館にて奈良E会・大阪E会・堺E会・富田林E会が合同ザメンホフ祭を行った。

参加者は大阪5人、堺5人、富田林5人、奈良4人、それに豊中1人の計20人であった。会費は500円。司会は佐々泰弘さんが務め、自己紹介の後、ロンド別だしものが続いた。

まず、奈良の木元靖浩さんが「感動のブローニュシュルメール」と題して、第100回世界エスペラント大会の遠足で第1回大会会場のあるブローニュシュルメール市を訪れ、市をあげての歓迎や、式典に感動したことを中心に、第100回大会の報告をした。

堺は3本建て。堺市ゆかりの歌人と謝野晶子の詩「君死にたまふことなかれ」のエスペラント訳を横田祐さんが朗読した。続いて、南山典生さんが第102回日本大会の東日本大震災関連の番組を中心に報告し、寺島俊穂さんが11月発行の新刊自著『戦争をなくす平和学』を紹介した。

図書の紹介を田熊健二さんが新刊を中心に行い、休憩に入った。エスペラント名を持つ店 Bonfartaのお菓子も出された。

富田林は Larmoj de la Serpentino を参加会員全員で、紙芝居形式で行った。

大阪は、田熊健二さんが世界大会後、娘家族が住んでいるドイツ、シュトゥットガルトに寄り、同市やその周辺の観光について話した。同市に、「エスペラント通り」や「ザメンホフ通り」があることも報告した。

本の売上は25冊、30,610円。 [←田熊 健二]

広島

12月16日正午から東雲塾で年次総会兼ザメンホフ祭を開催。出席者は11人。

持ち寄りの料理で昼食をとったあと、中国四国大会のスライドショー。出席者のうち大会に参加した6人がそれぞれ感想を述べた。総会では活動報告の印刷物を配布し、説明を行った。 [←中国四国だより]

高知

12月17日に平和資料館・草の家で高知E会がザメンホフ祭を開いた。参加者は7人。30年ぶりという方が2人も参加、アマチュア無線で世界とつながったことなど、思い出話に花が咲いた。

[←中国四国だより]

福井

12月20日午後1時半より、福井市のブータン・ミュージアムで行った。参加者は講師含めて10人。

今年は金沢在住の林文閔(林文慧)さんを選んで、講演「中国から日本に来て感じる文化の違いについて」をしてもらった。充実した内容で楽しめた。

終わった後、7人が参加し、場所を変えて夕食を兼ねた忘年会を楽しんだ。

[←北川 昭二]

## ロンドの近況

### 宮崎エスペラント会

星井眼科で例会を行っている。現在のテキストは“Modernaj Robinzonoj”。11月と12月の例会で、1月16日から実施する入門講習会の詳しい内容を相談した。

[←近藤 方彰]

### 池田エスペラント会

11月28日、俳句の会を行った。参加者は4人。詠んだ句はモバード俳句に投稿する。

ふだんの例会では池田中央公民館に月2回集まり“La Aventuroj de Ŝerloko Holms”(シャーロック・ホームズの冒険)を輪読。現在、第5話の“La kvin orangsemoj”を読んでいる。

[←島谷 剛]

## アンドレイ・コロベイニコフ2月に来日

ロシアのピアニスト、アンドレイ・コロベイニコフさんが2月20日(土)に、京都コンサートホールでの日本センチュリー交響楽団・京都特別演奏会に出演する。アンドレイさんは何度か世界エスペラント大会に出演していて、第100回大会でもリサイタルを行った。上記演奏会については、同コンサートホールのサイトで「公演カレンダー」の2月20日の項を参照のこと。

[←アンドレイ友の会]

# Vortkruca enigmo

## Redakcio

Vicigu adekvate 6 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun steleto. Tiam vi akiros nomon de urbo en Eŭropo.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de februaro, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.

1	2	3	4	5	6		7
8				*		9	*
10					11	*	
	12	*					
13	14				15		
16			17		18		
19		20				21	
		*				23	24
	22					*	
25				26			

**Horizontale:** 1. Veturanto de publika veturilo. (x) 8. Stangeto kun fosforo ĉe la ekstremo, uzata por ekbruligi. 9. Sufikso signifanta membron.(x) 10. Kurba ostoj en brusto.(x) 11. Kolo de ĝirafoj estas tre longa, sed tamen ĝi havas nur 7 ~ojn same kiel tiu de homo.(x) 12. En la komenco de formala letero oni skribas "~ata sinjor(in)o".(x) 13. Praavo de porko.(x) 15. Pafi sagon per ~o.(x) 16. Pronomo.(x) 17. Ne singularo.(x) 19. Mi ~as vin, ĉar vi estas riĉa.(x) 22. Homo, kies prapatroj vivas en la loko de malnova tempo.(x) 25. ♪Dum ~il', birdeto kaj mi ne similas inter ni, ĉiu el ni kun diferenc' bonas en esenc'.(x) 26. La kavaliro prenis manon de la princino por ~ ĝin.

**Vertikale:** 1. En ~o oni diskutas kaj faras

decidon pri leĝoj.(x) 2. La amikoj salutis unu al ~aj.(x) 3. La aviadilo flugas ~ nuboj.(x) 4. En parko promenas ge~antoj.(x) 5. Konduktanta laŭ etiketo.(x) 6. Sufikso signifanta malgrandecon.(x) 7. Apartenanta al malnova epoko.(x) 9. "1" de ludkarto.(x) 11. Mara besto simila al salikoko, sed pli granda.(x) 14. Arbo, kiun japanoj metas ĉe la enirejo de sia domo por akcepti dion.(x) 17. Akra ekstremo de objekto.(x) 18. Unusola, ne simila al aliaj.(x) 20. Speco de alkoholaĵo.(x) 21. Ne plu fari.(x) 23. Pronomo. (x) 24. Mi kaj vi, mi kaj ili.(x)

La solvo al la decembra enigmo: **MERKURO**

La ĝustan solvon donis 9 legantoj:

西千寿子  
前藤寛  
荻原克己  
平井倭佐子  
CA  
Kacu  
中村文雄  
武藤たつこ  
鈴置二郎

A	N	A	L	F	A	B	E	T
K	U	R	I	E	R		V	E
C		M		S		F	I	L
E	L	E	K	T	R		T	E
P	A		I	E		N		R
T			F	A	N	T	O	M
	S	E	M		I	M	A	G
Ĉ	A	R		D	A		N	
E	T	I	M	O	L	O	G	I

## 楽しい作文教室4月号課題(2月20日締切)

- ①私は古い文書を探していた。
- ②私は彼に10万円を託した。
- ③どんな値段であっても買うように言った。
- ④彼女は彼を店に連れて行った。

(ヒント) 文書 dokumento、値段 prezo. konfidi, ĉia, konduki を調べましょう。日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811  
塚本 猛

[電子メール] c\_tak@esperanto.ne.jp

(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

## Mikspoto (当欄は敬称略)

★ 岩波書店 PR 誌『図書』2015 年 5 月号に、日野原重明が「日本点字図書館と本間一夫」という記事を寄せているが、その中で岩橋武夫について、「エスペラント語の学習手引書などの点字印刷を始めた」と書かれている。 [←濱田 國貞]

★ 『政経研究』第 52 巻第 2 号に、長沼宗昭が「ザメンホフとシオニズム」という論説を書いている。ワルシャワのユダヤ人墓地にあるザメンホフの墓の描写から始まり、ザメンホフ幼時のピャウイストクの状態、ザメンホフの生育歴、学生時代に揺籃期のシオニズム運動に参加していたこと、ヒレリスモからホマラニスモへの流れを詳述している。ホマラニスモ宣言の全文も紹介されている。論説の最後の部分に書かれている「残念ながらエスペラントが力強く普及して行く兆しはまだ見えない」というのが筆者の結論と思われる。 [←後藤 齊]

★ 12 月 12 日付『宮崎日日新聞』文化欄に「民族結ぶエスペラント語」という見出しの記事を、宮崎エスペラント会会長松本淳(すなお)が寄稿。画家瑛九が書いたエスペラント文の手紙のこと、ザメンホフのこと、学生エスペラント運動の流れ、エスペラントによる国際結婚と、エスペラントを母語とする人たちの存在、第 100 回世界エスペラント大会の動画がネットで視聴できることなどを紹介している。記事中では外国の雑誌で見たという「お金が必要であれば英語を、友が必要であればエスペラントを、賢くありたいのなら、両方を学びなさい」ということばも引用している。 [←近藤 方彰]

★ 中部大学発行『アリーナ 2015 18 号』に、「エスペラントから第 9 条の会なごやへ 一勝守寛先生の思想を受け継ぐ」と題して、23 ページにわたる座談会が載っている。座談会参加者 6 人のうち川合隆史・川合紀子夫妻と、表題にある勝守寛はエスペランチストで、川合はエスペラントを知ったきっかけや海外での交流、家族でワルシャワ世界大会に参加した経験などを詳しく話している。由比忠之進や出口王仁三郎の名前、宮本正男の著書も話題になっている。 [←田平 正子]

★ 『政経研究』第 52 巻第 2 号に、長沼宗昭が「ザメンホフとシオニズム」という論説を書いている。ワルシャワのユダヤ人墓地にあるザメンホフの墓の描写から始まり、ザメンホフ幼時のピャウイストクの状態、ザメンホフの生育歴、学生時代に揺籃期のシオニズム運動に参加していたこと、ヒレリスモからホマラニスモへの流れを詳述している。ホマラニスモ宣言の全文も紹介されている。論説の最後の部分に書かれている「残念ながらエスペラントが力強く普及して行く兆しはまだ見えない」というのが筆者の結論と思われる。 [←後藤 齊]

## KLEG 事務局だより

★ 関西地方のザメンホフ祭は、6 (6) 会場で開催され、延べ 100 (107) 人が参加しました。

( ) 内は昨年の数字です。

★ その内 5 (5) 会場で書籍や CD が販売され、合計 124 (113) 点、149,910 (131,260) 円の売上がありました。

★ 売上上位 5 位までを紹介すると、「考えるエスペラント文法」21 冊、「*Vivis・Vojaĝis・Verkis*」9 冊、「単語力から総合的な語学力へ」7 冊、「*Glumarko Nitro*」4 シート、「*Tra la lando de kanguruoj*」3 冊、「*La Tagiĝo (CD)*」3 枚となっており、昨年出版された新刊書がよく売れました。

## KLEG 後援会へのご寄付

(2015 年 12 月、敬称略)

A.J.	40,000 円
上田 友彦	10,000 円
匿名	10,000 円
藤田 武男	5,000 円
手塚 登士雄	1,200 円
金森 美子	1,200 円
谷川 弘	1,200 円
蒲 豊彦	1,000 円
河瀬 薫	600 円

ご支援、ありがとうございます。

## KLEG (関西連盟) 委員会報告

11 月 21 日 15 時 30 分から、KLEG 事務所で。出席 16 人、委任 9 人。議長：浮田政治(高槻)、書記：東藤薫久(高槻)。主な報告審議事項は①第 63 回関西大会の決算を承認②第 64 回関西大会のプログラムと予算について検討③第 103 回日本大会について④部局報告⑤ロンド報告ほか。

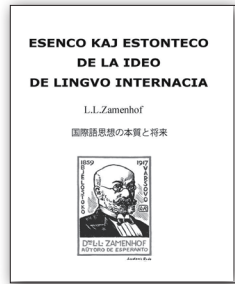
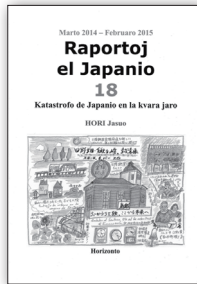
## 楽しい作文教室 (55) 成績

13 人の方から応募がありました。( ) 内は留意事項です。

うん、良いね：AG, CA(por), Orion(pliĝos), Ivajo (prognosis), M.H.

良いね：Eiko(pluvas), ヒー坊、alfa(ankouraŭ), ikona(anakŭ), Fumi(por), T.Ku(綴り)。

もうひといき：festo(pluvas, malfacira), drako (pluvas, ĉiam)。



★ 新刊・新着 ★

世界の旅人堀さんのエスペラント気ままエッセー 5  
1200円

堀泰雄の好評シリーズ最新刊。NHKラジオ出演の記録、支援をつづける釜石市唐丹を中心とする被災地訪問記、書評など。A4判、222p.

La templo de l'suno 1900円  
人気シリーズ「タンタンの冒険」のうち南米が舞台の『太陽の神殿』。ビーカー教授と再会を果たしたタンタンらは……。A4大判、62p.

Esperanto and its rivals 7400円  
Roberto Garvia 著。エスペラントを中心に、ヴォラピュク、イドなど国際語の興亡を追う。英文書籍。A4判、240 p.

La interna milito en Francujo 1800円  
マルクスがパリ・コムニオンを論じた『フランスにおける内乱』(V. Lutermano 訳)の第2版。  
A5判、116p.

★ 堀泰雄の好評エッセー集 ★

Raportoj el Japanio 15 1500円  
Raportoj el Japanio 16 1300円  
Raportoj el Japanio 17 1300円  
Raportoj el Japanio 18 1300円

3・11以降各年の状況を伝える「報告」。

※1～14も在庫あり(1200～2200円)。

世界の旅人堀さんの気ままエッセー 3 1200円  
世界の旅人堀さんの気ままエッセー 4 1200円  
エスペラントを活用したとりくみをつづる。

震災の記憶 1500円  
被災地4年間の歩み。150枚の写真に日本語・エスペラント対訳のことばを付した力作。

★ 在庫から ★

20のポイントで学ぶ国際語エスペラント入門 432円

阪直著。簡約にまとめられた入門書。  
エスペラント中級独習 2160円  
藤巻謙一著。豊富な練習メニューを満載。CD付。

Esenco kaj estonteco de la ideo de lingvo internacia 600円  
ザメンホフによるエスラントの原点を示す論文。

La Konstitucio de la Regno Japanio 600円  
Nun-vortojの新訳「日本国憲法」。原文対訳。  
エスペラントと平和の条件 1100円  
寺島俊穂著。「平和学からみたザメンホフなど」。

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



★ 1月号10ページの高槻エスペラント会の記事に発足が1996年とあるは1966年の間違いです。訂正します。  
★ 校正担当者を募集しています。しごとの内容については lamovado@gmail.com へお問い合わせください。  
★ 堀田裕彦さんの連載が始まりました。感想や補足があれば、編集部へお寄せください。(島谷剛)

発行所：ラ・モバード社 編集：相川節子 発行人：北さとり 定価280円 送料62円 1年3800円 送料共本  
局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204  
電話(06)6841-1928 ファクス専用(06)6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.jp  
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://kleg.jp  
九州支局：九州エスペラント連盟内 818-0105 福岡県太宰府市都府楼南2-8-7 武藤たつこ方 電話(092)923-2877  
中国四国支局：中国四国エスペラント連盟内 791-3120 愛媛県伊予郡松前町筒井1057-1 中塚公夫方 電話(089)984-3568  
印刷人：村上治道 621-0815 京都府亀岡市古世町北古世82-3 株式会社 天声社